

技術指導申請書 (日本語)

기술지도 신청서 (일본어)

申請番号: KJC-2026-0082

☑ 翻訳者: 번역가 계정 (translator)

📅 完了日: 2026-09-23 16:44:33

企業概要	企業名 (英文)	BYUCKJIN CO.,LTD		
	所在地	チョルラブック・トクンサン・シ [全羅北道群山市]		
	業種	☐ 機械 / 重工業 (工作機械、産業機械、建設機械、プラント設備) ☐ 金属 / 素材 (鉄鋼、非鉄金属、合金、新素材 [炭素繊維、セラミックス等]) ☐ 電気 / 電子 / IT (半導体、ディスプレイ、電子部品、通信機器、電子機器) ☒ 自動車 / 輸送機器 (完成車、自動車部品、鉄道・航空・船舶部品) ☐ 化学 / 石油化学 (精密化学、高分子・プラスチック、合成樹脂、機能性素材) ☐ エネルギー / 環境 (二次電池 [バッテリー]、水素、新エネルギー、環境設備) ☐ 食品 / 生活用品 (加工食品、飲料、消費財生産) ☐ 繊維 / ファッション (一般繊維、機能性繊維、衣料製造) ☐ バイオ / 医療 (医薬品、バイオ素材、医療機器、ヘルスケア) ☐ その他		
	設立年度	1974年	従業員数	80名
	主な生産品	自動車用ディーゼルエンジンシリンダーヘッドおよびF.W.H / 高速鉄道車両用台車部品 / 建設機械用鋳鋼鋳物、溶接構造用鋳鋼品		
	ホームページ	www.bjsteel.kr		

技術指導 申請情報	指導希望期間	2027年 2月 ~ 7月 (6ヶ月)
	指導方法	☒ オフライン (訪韓指導) : 日本の技術者を企業の製造現場に招待して指導を受ける形式 ☐ オンライン (遠隔画像指導) : Zoom、Teams、Google Meetなどのビデオ会議プラットフォームを活用して指導を受ける形式 ☐ オン + オフライン並行指導

	指導希望内容	1) 鉄道車両部品(Journal Box、Case Sleeve、Link Arm Housing)の加工サイクルタイム短縮
		2) 建設機械部品(Bracket Motor)の加工サイクルタイム短縮
		3) 鉄道車両部品(Journal Box)の内径加工精度向上(公差：0～46μm)
	技術指導希望分野	☐ 研究開発（新製品 / 新技術研究、新素材開発、プロトタイプ製作） ☐ 設計（製品設計[CAD/CAE]、回路設計、金型 / 治工具設計） ☒ 生産技術（工程設計、生産ライン構築、生産性向上、自動化推進） ☒ 製造（加工、組立、成形、溶接、組立ライン運営） ☒ 品質（品質検査、不良分析、ISO / KS認証対応、品質改善活動） ☒ 設備 / 保全（生産設備点検、故障対応、予知保全、ロボット / 自動化設備管理） ☐ 生産管理（生産計画立案、資材所要量管理[MRP]、原価 / 納期管理） ☐ 購買 / 資材調達（原材料購買、協力会社管理、サプライチェーン管理） ☐ 物流 / 在庫（原材料入出庫、製品出荷、物流自動化） ☐ 安全 / 環境（労働安全管理、環境規制対応、ESG経営支援） ☐ 市場調査（産業動向、競合分析、新技術トレンド調査） ☐ その他
	悩み技術製品写真	

申請のきっかけ	技術指導事業申請のきっかけ
当社は、鋳造および機械加工を基盤として、自動車、鉄道車両、建設機械向け部品を製造するメーカーです。近年、切削工具費の急激な上昇による製造原価の増加に加え、顧客から求められる品質および納期の水準が年々高まっていることから、生産性向上、製造コスト削減、品質安定化を目的とした継続的な製造改革が必要な状況にあります。 2026年度には、第1工場のエンジン部品「Cyl. Head In-Line」の加工工程を対象として、日本の優秀な技術者による技術指導を受け、生産現場の工程改善および作業方法の合理化を推進しました。その結果、現場改善と生産性向上において実質的な効果を確認することができ、日本の製造現場における体系的な改善手法と現場中心の課題解決アプローチが、当社の製造競争力向上に大きく役立つことを実感しました。 この成果を踏まえ、2027年度は前年度の指導課題と重複しない新たな改善テーマを設定し、さらなる技術指導を受けたいと考えています。 特に、生産工程全体の流れの改善、工具寿命の延長、作業標準化、生産性向上、製造コスト削減、現場におけるムダの排除など、より体系的な生産革新活動を推進し、その成果を当社製造現場に定着させることで、継続的な改善が可能な管理体制を構築することを目指します。	

また、日本の技術者が有する豊富な現場経験と改善ノウハウを一時的な技術支援にとどめるのではなく、当社社員が改善手法を自ら習得し、社内へ共有することによって技術を内製化し、長期的な生産性および品質競争力の向上につなげることを目標としています。

そのため、2026年度の技術指導で得られた成果をさらに発展させ、新たな製造革新課題に対応する専門技術と先進的な改善手法を習得するため、本事業への継続参加を申請します。

期待効果	日本技術者指導の必要性および期待効果
	当社の現場改善には、設備投資や作業方法の変更だけでは解決できない課題が数多くあります。そのため、生産工程全体の流れを分析し、作業者の作業内容を踏まえて、現場にあるムダを継続的に抽出・改善していく現場中心のアプローチが必要です。 日本の製造現場では、TPS(トヨタ生産方式)やリーン生産方式を基盤として、「待ち」「運搬」「在庫」「不要な作業」など、生産現場で発生するさまざまなムダを継続的に発見・改善する活動が体系的に定着しています。 特に、現場で作業者ととも実際の作業を観察し、問題の原因を分析したうえで改善策を導き出す手法は、当社が目指す現場改善の方向性と一致しています。 2026年度の日本人技術者による技術指導を通じて、実際の生産現場で改善成果を確認したことにより、このような現場中心の改善手法が当社の生産性向上や作業方法の合理化に有効であることを実感しました。 そのため、2027年度は前年度とは異なる新たな加工工程を対象として、日本の製造現場で長年培われてきた現場改善の経験と問題解決ノウハウを有する専門技術者の指導を受け、当社に適した改善手法を確立したいと考えています。 本技術指導の重要な目的は、外部の改善手法を一律に適用することではありません。日本人技術者が当社の生産現場を直接観察し、作業者ととも課題を分析したうえで、当社の生産特性や工程条件に適した改善案を提案し、その改善手法を当社社員が自ら習得・実践できるようにすることです。